



し しん かい
志真会

滑川市議会議員

会報 2024
11月発行

11月に入り、ようやく寒さを感じる季節となりました。ここ最近、秋が短く、いきなり冬に突入したように感じられます。皆様、いかがお過ごしでしょうか。志真会としては、良い街づくりをするために今後も発信し続けてまいりますので、どうぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、市議会におきましては、9月定例会において、追加補正予算及び令和5年度の各会計決算などを議案通り全会一致で可決いたしました。この度可決された予算が、市民の皆様にとのよう活用されるのか、そして予算が適切に使われているのかを、私たち市議会議員はしっかりと確認していくことが大切だと考えています。

今回の補正予算額

一般会計 2億7,787万円（補正後予算額145億7,983万円）

話題になったものや予算額が大きいものは以下の通りです。

① 宅地液状化等復旧支援事業費（総額3,833万円 うち県の補助1,917万円）

能登半島地震により堀江、常光寺地区において液状化現象が発生しました。市は恒久的な液状化対策実施を進めるにあたり、国の直轄調査による支援をいただいております。この調査結果を踏まえ地元町内と協議し検討していき、被害を受けられた地域において宅地の復旧や地盤改良、住宅の基礎の傾斜復旧を行う費用となっております。

② 除雪対策事業費（総額400万円 うち国の補助200万円）

国の交付金を活用して、市内4箇所に積雪状況を測定するセンサーとカメラを設置する費用です。これにより、冬季における道路除雪を迅速に行えるようになります。

③ 防災対策推進費（総額270万円 うち寄附金50万円）

能登半島地震において被災地では、断水の長期化による水不足が大きな問題となりました。それを受け、富山県鑿井（さくい）協会において防災用手押ポンプを設置していただけることとなりました。市役所施設内に設置しその周辺整備にかかる費用です。それに加え、清水寺から「滑川音羽の会」を通じて義援金をいただきました。それを活用して、指定避難所でもある各小中学校の体育館に車椅子を配備する費用です。

令和5年度一般会計決算額

歳入 154億4,878万円 歳出 145億4,667万円

繰り越す事業費 8,769万円 実質収支額 8億1,442万円

滑川市は、一般会計及びその他の会計を含めた連結決算も赤字となっております。実質交際費率は、4.7%、将来負担比率は、-（ゼロ）となっており、財政は健全な状態と認められます。

※実質交際費率は、市の借金返済額が財政に対してどれくらいあるのかを示すものです。

18%以上の場合、地方債の発行に総務大臣等の許可が必要となっています。

※将来負担比率とは、一般会計等の借入金（地方債）等の現時点での残高が将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標です。

以上、簡単ではございますが、令和6年9月度の補正予算の一部内容と一般会計の決算額をお伝えさせていただきました。議会は、YouTube にて録画配信されていますので、QRコードからご確認ください。なお、市の発展の為に皆様のご意見等も多くお聴きしたいので見かけましたら声をかけていただければと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

竹原正人 議員



議会で質問した内容

9月定例会では、姉妹都市交流について、DXの推進について、公共施設使用料の改正についての3項目を質問しました。市長は8月26日から30日までの5日間の日程でアメリカイリノイ州シャンバーグ市に表敬訪問されたことから、姉妹都市交流の今後のあり方について質問をしたところ。市長からの答弁で、子どもたちの交流や産業界の交流を含めて大々的に訪問するのであれば、3年後の姉妹都市締結30周年の節目に行いたいとの答弁がありました。私も7年前の訪問団に参加しましたので、姉妹都市交流の積極的な交流は必要だと考えています。特に子どもたちには将来の夢や希望が持てる事業になればと思っています。また、DXの推進では、本市の取り組みが遅れているように感じているため、現在の取り組み状況と今後の新規事業について展望を伺いました。そして、公共施設使用料等の改正については、今回市側の一方的な料金改正であったため、施設管理者との意見交換の必要性を訴えました。公共施設の使用料は当然の事ながら、利用者側からすると、安い方が喜ばれます。しかし維持管理費は年々増えていきますし、施設自体の老朽化による修繕費などもかかります。総合的に判断をして使用料金を設定するのが妥当だと思っています。

最近気になること

今年の夏は暑い日が続き異常気象でした。徐々に秋らしい天候になってきましたが、今冬の天候や積雪の量はどうか、異常気象だけに気になります。

谷崎潤一 議員



議会で質問した内容

9月定例会では、創業支援事業補助金、公民連携による旧町部エリア再生調査業務、高齢者の滑川市総合体育館利用料金、市の歩道修繕について一般質問を行いました。令和7年4月には、滑川市総合体育センター条例の一部を改正する条例の制定にあたり、高齢者の滑川市総合体育館利用料金について、利用場所を限定して70歳以上の利用を無償化できないか質問しました。当局からは、ランニング走路の無料化や高齢者割引を行っている近隣自治体の事例を参考に、滑川市総合体育センターにおいても、無料または割引対象となる利用場所や条件などを検討していくとの前向きな回答を得ました。

歩道については、生活道路であり通学路でもあることから、危険な箇所については整備を進めていただこう、今後も議会で積極的に要望していく所存です。市民の皆様が安心して暮らせるよう、今後も様々な角度から質問を行い、市政に貢献してまいります。

最近気になること

新井学園理事長との懇談で、高校再編やキャリア教育について貴重な学びを得ました。選ばれる学校づくりや不登校生への対応など、今後の教育活動の指針となるご意見をいただきました。生徒たちが希望を持って未来を切り開けるよう、尽力してまいります。

安達真隆 議員



議会で質問した内容

9月定例会では大きく分けて2つの質問をしました。①児童生徒の校外学習について質問しました。過去に行われていた立山登山はなぜ現在行われていないのか。上田教育事務局長からは「30年ほど前までは市内でも幾つかの小学校において立山登山が行われていたが、現在は市内全ての学校で行われていない。その要因としては安全確保のために引率者の人員確保が難しいことや、遭難・滑落事故・ガス中毒事故など様々な要因から行われなくなった」と説明がありました。現在は子供の体力にも個人差があることなどから、近くの山を選んで校外学習に臨んでいると回答をいただきました。様々な要因があることは承知しているが、素晴らしい立山登山を再開するよう今後も促します。②診療所開設支援事業について質問しました。今年度予算の中に診療所開設支援事業の予算が計上されていたため現在の進捗を聞きました。「新規の開設については、市内外から問い合わせが多数あり、現在まで来年度開業に向けて事前協議を行っているケースが1件、そのほか数件開業に向けて検討している」との答弁でした。少しでも多くの開業医が増えるよう要望していきます。

最近気になること

今年の猛暑は10月下旬まで長く続き、今後、気象変動による大雪などが心配です。

青山幸生 議員



議会で質問した内容

9月定例会では、主に3つの質問をしました。①持続可能な農業について②今後の消防団について③市民の憩いの場についてです。

①については、近年、農業生産資材である肥料および飼料が高騰している中、2024年産米の概算金が発表されましたが、市の見解と所得向上に向けたアイデアを質問し、「概算金が増えたことは所得向上につながり喜ばしい」との答弁でした。また②の今後の消防団においては、滑川市の消防団の力向上モデルの実績を確認し、「消防団車両に積載するタブレット導入の申請を行いました却不採択になりました」との答弁を受け、来年度以降に消防団員が増えるよう催しの申請の検討をお願いしました。③市民の憩いの場については、西部小学校と東部小学校の児童数を合計した場合、市内児童数の約48%を占める状況の中、同校区には緑地および公園が少ないように感じるため、市の見解はどうかを伺いました。水野市長の答弁では、「住宅団地等を新設する際の内規を決め、緑を増やし、子どもたちの遊び場を増やすことも考えていかなければならない」との発言があり、水飲み場および遊具の設置においても同地区に必要と強く要望致しました。今後も市民の子育て環境や安心安全なまちづくりに、貢献できるよう努めてまいります。

吉森真人 議員



議会で質問した内容

9月定例会では、大きく3つの点について質問いたしました。①地域おこし協力隊について令和6年1月に滑川市で初めて地域おこし協力隊として田中啓悟さんが就任し、3月には2人目の寒河江大輝さんが加わりました。就任から半年以上が経過しましたが、まだ市民の皆さまへの認知度が低いと感じ、彼らの具体的な活動内容や目標などを確認いたしました。②子どもたちへの事業について、市が実施した「なめりかわ未来学校サマースクール」と、姉妹都市の豊頃町への「ふれあいのバス派遣事業」の2つの事業について質問いたしました。これらの事業を通して子どもたちがどのような経験をしたのか、そして今後の事業の改善点について提案いたしました。③医療について県は、来年度から医療費の助成対象を小学生まで拡大する方針です。すでに高校生まで助成を行っている滑川市において、これによりどれだけの負担が軽減されるのかを確認。回答によると、年間約1,700万円の負担軽減が見込まれるとのことでした。この削減額をどう活用していくのか、具体的な計画について質問したところ、現在検討中とのことでした。そこで、HPVワクチンの男子への助成を提案致しました。

最近気になること

物価高騰や最低賃金の引上げによる、中小企業への影響と対策について。

コラムを編集後記に代えて

近年、「人生100年時代」という言葉が定着し、健康に対する関心が高まる中、私は先日、『動き始めたゲノム編集』という書籍を読み、大変興味深く思いました。この本では、2012年のCRISPR-Cas9の発見により、あらゆる生物の遺伝子情報が解き明かされようとしている現状が詳しく解説されています。このゲノム編集技術は、医療分野において、新たな可能性が最も期待されている分野の一つです。例えば、遺伝性の難病の治療や、がんの予防・治療、そして老化のメカニズム解明による寿命延長など、私たちの健康寿命を延ばすための革新的な治療法の開発が期待されています。また、再生医療の分野においても、損傷した組織や臓器を再生するための新たな治療法の開発に繋がることが期待されています。

一方で、農業分野においても、その応用は無限大です。例えば、病害虫に強く、収穫量の多い作物の開発や、栄養価の高い食品の創出などが考えられます。これにより、食糧問題の解決や、より健康的な食生活の実現に貢献できる可能性を秘めています。これは世界の人口が80億人を超え、将来的にさらに日本における、食料の買い負けが起こることを想定しましても、国民一人一人の食料安全保障につながります。しかしこの画期的な技術には、まだ解明されていない部分も存在します。遺伝子を切断することによる副作用や、意図しない遺伝子変異を引き起こす可能性、そして倫理的な問題など、慎重に検討すべき課題が数多く残されています。特に、生殖細胞へのゲノム編集は、将来世代に影響を与える可能性があるため、国際的な議論が活発に行われています。

人類は、この技術をどのように活用していくべきなのでしょう。私たち一人ひとりが、技術の進歩をしっかりと見守り、未来社会を築いていくための議論に参加していくことが重要だと思いました。皆様が健康で長生きし、この素晴らしいゲノム編集技術の恩恵を受けながら、充実した100年時代を過ごせるよう心から願っております。

青山 幸生